

若年性認知症

支援コーディネーターを ご存じですか？



65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」といいます。年齢が若いことから、就労や経済面など高齢者とは違った課題を抱えることも少なくありません。名古屋市には、認知症相談支援センターに「若年性認知症支援コーディネーター」が配置されています。若年性認知症の人や家族だけでなく、企業や就労支援機関、医療機関や障害福祉サービス事業所、区役所、いきいき支援センターなどからの相談にも応じます。



認知症かもしれない

認知症と診断された
これからどうしたらいいの？

今の職場で働きたい

経済面の不安が大きい

社会とつながり続けたい

子どもへのケアを相談したい

若年性認知症支援コーディネーターは、若年性認知症の人が望む、自分らしい生活を続けられるよう、認知症とともに前向きに歩むことができるチームづくりを行います。

早い段階でご相談いただくと、様々なサポートを受けられる可能性があります。

電話相談

訪問相談

来所相談

※事前予約

※事前予約

若年性認知症支援コーディネーターへのご相談は**こちら**へ

名古屋市認知症相談支援センター

Tel 052-734-7079 (月～金 9:00～17:00)

住所 名古屋市昭和区阿由知通 3-19 昭和区役所 6 階

右記二次元コードより
アクセスください
<http://n-renkei.jp/>



なごや認知症あんしんナビ

検索

65歳未満で発症した認知症

若年性認知症の人と ともに働く企業の方へ

指示されたことを
うまく
こなせなくなった。

段取りが悪くなり、
業務に時間が
かかるようになった。

作業に
手間取ったり、
ミスが
目立つようになった。

約束を忘れたり、
忘れ物が
多くなった。

職場の仲間や
取引先の相手の
名前が
覚えられなくなった。



※このようなサインは
認知症の可能性が
あります。

case
1

従業員が
認知症
かもしれない・・・

case
2

認知症と
診断されたが
働き続けられるの？

case
3

認知症の
従業員を雇う
企業側の利点は？

case
4

休職中・
退職後は
どうなるの？

詳細は
中面へ



若年性認知症支援コーディネーターにご相談ください。医療機関や就労支援などの専門家と連携し、企業と本人をサポートします。▶▶▶

受診の
サポート

就労を
継続するサポート

休職中・
退職後のサポート

若年性認知症支援コーディネーターへのご相談は**こちら**へ

名古屋市認知症相談支援センター

Tel 052-734-7079 (月～金 9:00～17:00)

住所 名古屋市昭和区阿由知通 3-19 昭和区役所 6 階

右記二次元コードより
アクセスください
<http://n-renkei.jp/>



なごや認知症あんしんナビ

検索



職場でこんなお悩みはありませんか？

✿ 若年性認知症支援コーディネーターにご相談ください。

Case
1

従業員が認知症かもしれない・・・



「出来ていた仕事ができなくなった」
「体調不良が続く」「原因がはっきりしない」

- ☑ 現れている症状などをお聞き、どのようなアプローチをしていくのか一緒に考えます
- ☑ 「うつ」や「更年期障害」と間違われやすいため、認知症に詳しい専門の医療機関を案内します
- ☑ どのように受診につなげたらよいかなど、産業医や産業保健師、衛生管理者などからの相談に応じます

Case
2

認知症と診断されたが
働き続けられるの？



「安全に任せられる業務がわからない」
「どう接していいかわからない」

- ☑ 仕事を続けることができるよう、認知機能の評価やジョブコーチの支援などの障害のある人の就労を支援する専門機関につなぎます
- ☑ 企業と従業員の間に立ち、継続的なサポートを受けられるよう障害者就労等の相談支援機関につなぎます

Case
3

認知症の従業員を雇う
企業側の利点は？



「働き続けてもらうためには？」
「何か助成を受けられないのか」

- ☑ 精神障害者保健福祉手帳による障害者雇用を提案します
- ☑ ハローワークの助成金などを案内します
- ☑ 「仕事と治療の両立」を支援することで、働きやすい健康経営につながります

Case
4

休職中・退職後はどうなるの？



「休ませるタイミングがわからない」
「退職後も元気でいてほしい」

- ☑ 休職や退職の時期について、企業と従業員と一緒に考えます
- ☑ 傷病手当金や障害年金等の経済的支援について提案します
- ☑ 退職後も働いたり、孤立せず社会参加できるよう地域の活動の場を調整します

✿
職場の声

本人



仕事を続けられるのか、子どもの学費や家のローンを払えるのか、頭の中が真っ白になりました。支援コーディネーターと一緒に会社と話し合いながら仕事を続けることができています。

上司



どのように仕事を続けてもらえるか困っていました。職場で認知症の症状や業務の工夫など説明をもらい、認知症への理解が深まりました。

同僚



病気とともに働く仲間の姿に勇気をもらいました。病気になっても安心して働ける職場だと感じています。



「若年性認知症支援コーディネーター」は、診断を受けた従業員だけでなく、企業に対しても適切な時期に適切な社会資源を活用できるようサポートを行っています

- ◆相談は無料です
- ◆認知症が疑われる（診断がない・つかない）時期から相談に応じます
- ◆中立的な立場で企業と従業員の判断をサポートします

